

第2回

宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録（概要）

日 時：平成27年9月4日（金）午後2時～

場 所：宇城市役所2階庁議室

1 開会

2 挨拶

3 議事

4 その他

5 閉会

【配布資料】

（事前送付資料）

- ・資料1「宇城市総合戦略 基本目標・方向性（骨子案）【概要版】」
- ・資料2「宇城市人口ビジョン（骨子案）【概要版】」
- ・資料3「宇城市人口ビジョン 人口の現状分析（概要版）」
- ・資料4「宇城市人口ビジョン 人口の現状分析（資料編）」
- ・資料5「宇城市人口ビジョン 人口の現状分析（資料編：別紙）」

（当日配布資料）

- ・資料6「第1回有識者会議での意見交換内容と
総合戦略における基本目標・方向性・主要施策方針の関係」
- ・資料7「第1回有識者会議質疑の回答」
- ・資料8「専門用語の説明」

【第3回会議】平成27年10月 6日（火）午後2：30～庁議室

【第4回会議】平成27年11月 6日（金）午後2：00～庁議室

【第5回会議】平成27年11月30日（月）午後2：00～庁議室

1 開会 (事務局)

2 挨拶

3 議事 (事務局)

- ・前回会議の振り返り
- ・資料の説明

(1) 人口ビジョン（骨子案） (事務局)

- ・少子高齢化が進み、生産年齢人口が大きく減少してきている。
自然動態の中では合計特殊出生率自体は増えてきているがそれ以上に亡くなる人の数が多いので、自然減になっている。
- ・合計特殊出生率は宇城市の都市核である松橋で高くなっているのが特徴。
- ・社会動態では若年層の流出が非常に大きくなっていて、流出先のほとんどが隣の宇土市や熊本市。近隣への流出が激しいのが特徴。一方で子育て世代の流入は発生している。
ただしそれ以上に若年層の流出が大きい。宇城市では首都圏への流出は大きくは発生していない。
- ・このまま何も対策を講じなければ宇城市の2060年の人口は3万5千人を割込む推計。
人口減少を食い止めるために取組むのが今回の総合戦略である。
- ・宇城市では「若年性の流出を防ぐために良質な雇用を高めて稼ぐ力を作り出す」ことを重点的に取組んでいく。

資料2より

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・地域の稼ぐ力を高め、良質な雇用を創出する・稼ぐ力を高める人の流れを創る・稼ぐ力を高めるための都市核の競争力を強化するとともに
人口減少に合わせた地域システムを構築する・結婚、子育て、教育の推進 |
|--|

上記の取組みを行うことで2060年に4万5千～5万人の人口維持を目標とする。
資料の中の数値的根拠は県や国の数値目標と整合性を図りながら検討中である。

【資料③と資料④】

社会動態の減少・若年層の流出に関して細かく分析した資料である。

(2) 総合戦略（骨子案）

資料①

（総合戦略の検討材料）

- ・創業分野において、地場の産業、住民、金融がどう関われるか
- ・日本版 DMO：観光マネジメントの一本化。観光地間の連携（観光―農業、観光―商業など）
- ・都市核の宅地環境を高めるためのソフト事業の連携。

（住宅メーカーや産婦人科、金融機関等との連携案）

- ・人口減少に合わせた地域社会システム構築。地元企業、学生、高齢者連携。

行政頼りでない、自主的な財源確保。

・子育て支援策。宇城市は手厚い子育て支援あるが、アピール不足。宇城市は他自治体と比べ、支援は劣っていない。どういうアピールができるか。マーケティング強化策

- ・結婚分野。学校、教育、出会い構築、産官学勤労の連携。
- ・地場高校の進学・就職率向上、地元就職率の向上の為に何ができるか。

地元高校との関わり。大学との連携（地域活動への参加、起業化）

4 質疑応答

（会長）

3項目の基本目標について、又、各分野についてのご意見いただきたい。

（委員）

- ・基本的枠組みの件。しごと、ひと、まちの並びは重点順か、並列順か？
「稼ぐ力を高める」を重点にした思いを聞かせていただきたい。

（事務局）

- ・基本並列。その中で、仕事を重点としている。
若年層の流出があるので、重点的にしている。
国の考え方に基づき宇城市もこの順番にしている。

（委員）

- ・松橋駅が今新しく変わろうとしている。

駅西側（不知火地区）に住宅戦略を練っていくと、人口が増えるのではないか。

（委員）→金融機関の方に質問

・市役所1キロ圏内と松橋駅1キロ圏内で農振を外した場合、どちらが住居を考えると魅力的か。融資をしやすいか。

（委員）

- ・買われる方次第。

どちらにせよ仕組みづくりをすれば、松橋はまだ増える気がしている。

- ・駅周辺でももう少し人の流れが変われば住宅申込も多くなってくると思う。

(会長)

- ・戦略は5カ年の計画だが、実際は次年度からになり実質4年間の取組み。

短期で政策効果が発現するものと、3～4年で効果発現するものと、時系列で実施していく必要がある。

長期的なプランは市のマスタープランでやるべき。

この5年で政策の発現効果があるものを集約したものが今日の資料①

各分野において3～4年でこういうことすれば結果がでるというプラン・意見を出していただきたい。

(委員)

- ・「まち」の部分で、コンパクトシティを提言した。都市核は大きな町のイメージがあるが、小さな町でまちの機能として交通機関や役所、銀行、商店街があり維持できるサイズであってほしい。(三角駅前や小川駅前を想定している。)

三角に関して言えば、支所付近の固定資産税が高く売買が進まない。下げることで人が入ってくるのでは。

- ・有識者会議について、最終的には何を具体的に決める必要があるのか知りたい。

資料1について・・・備考欄のような詳細なものまで決める必要があるのか？

(事務局)

- ・第3回においては「しごと」の部分に特化した具体的な施策のイメージを提案したい。

それについて再度、ご検討いただきたい

基本構想→基本計画→具体的実施計画を出して事業を明確にしなければ補助金の申請できないのでそのためのスケジュール

(委員)

- ・三角は小さい街ひとつひとつが集まってコンパクトシティ(宇城市)を作っていけばどうか。

西港が世界遺産になり地元は盛り上がっている。駅前開発などでも街が盛りあがっている。街が良くなれば企業が来るはず。

<5年後を見据えて各分野の方に質問>

- ・宇城市の特産品について商品開発が遅れている

宇城市の農産特産品にブランド化を図っていかなければ間に合わない

名称、ロゴなどを市で決めて農家に提供する。

その際地元高校の若いアイデアを採用して連携してアピールしていけばよいのでは？

企業の誘致可能性について融資面からみて果たしてなんパーセント来ると思いますか？

宇城市の農産物ブランド化は可能なのか。

・松橋には企業が集まっているが本社機能がない出先の製造拠点なので業績の良し悪しで急にいなくなる可能性もある。

大企業がくるときはどれだけ人が採用できるかを考える。

本社機能ごと移転したいと思う企業でないとなかなか来ないのではないか
(ブランド化について)

県外へ行く際の手土産として安定供給が欲しい。宇城市の手土産の認知度がない。

イベントや観光・西港が世界遺産に+αがないと東京からは来てもらえない

・農業推進について、いかにして具体的な策を立てていくかである。

販売高3千万以上の農家もいる。後継者に夢を与えるような事例を作っていかなければならない。

メロンやイチゴのブランド名はあるが地域の人へ認知度が低いので努力する。

農産物の付加価値について加工所を作りたいがなかなかうまくいかない。

地域を支えるのは農業だと思う

・隣の宇土市への流出が多いのはなぜか？

子どもの食育にもっと目をむけてはどうか。

食育と教育がうまくいけば、若い住む人が増えるのではないか。

宇城彩館の利用は熊本市からのお客さんがとても多いが開館時間が早いので残念である。

(事務局)

・確かに子育て世代の宇土流出が多い

宇城市の特色で何ができるのかを各分野みなさんの知恵を借りたい。

いままで繋がりなかった分野間で連携が取れるように、じっくり話し合いをしていきたい

(委員)

・綿密な資料で感心している。

子育て世代の増加が1つの救いである。

市外から宇城市内の事業所への通勤者数を把握して、その人たちの住宅供給に目を向けては？

(事務局)

・ターゲットを絞ることは必要と思う。

行政が住宅メーカーと組んで宅地開発以外での連携が今は欠けている。

結婚や従業員に対する住宅取得の効果的なタイミング・PR方法を検討する。

(委員)

・宇城市の強い部分に絞ってやっていく必要があり、それが市民に対しても分かりやすい。短いスパンで行うなら三角西港の世界遺産を前面に出していくことも必要。

観光分野を点ではなく線や面で考えて行った方が良い

(子育て支援策について)

行政からだけの支援ではなく地域ぐるみで子育てをしていく雰囲気作りが必要
商店街などで子育て応援の店などの取り組みや仕組みなど小さいことでも進めていければ
よい。

- ・情報処理科で1組のカップルの結婚式をプロデュースするという企画をしている。
結婚観を若いうちから育てていく目的があり、若者の流出抑制に繋がってほしいと思う。
レンコンを使った食品開発を地元企業とコラボレーションし連携を図っている。それを道の
駅で販売させてもらうことで地元の宣伝にもなる。
生徒たちも宇城を知って、好きになって定住するような教育をしていく。

- ・住宅メーカーとの連携に産婦人科、小児科、不動産業者なども加えてよいのではないかと。
住宅リフォーム補助金の制度があるが、そこで着工している建設業者や塗装業者や電気工な
どの情報を連携して提供できる部分もある。
後継者作りに関して勉強会などを行っているが、受講料の補助が他地域にはあるので、今後宇
城市でもして欲しい。

(会長)

- ・今年度熊本県が優良な企業をブライト企業として認定し表彰する制度を作り、宇城市にそ
んな企業を増やすと良い。
宇城市は農業が強い。ではどの産品が強いのか。
例えばメロン生産者倍増計画事業はできるのか、それだけの農地はあるのか作れるのか、具
体的にやっていけば農業の何が強いのか分かる。
一方で、特産品のブランドがない、一方では特産品が売れているとギャップがある。
宇城彩館は利便性がある、稼げる施設があるのだからそれを利用して稼ぐ。

4 その他

(事務局)

- ・次回は「しごと」の分野に絞って会議をすすめる。